

平成 28 年度 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会  
各部会の開催報告

5 部会：子ども支援部会、暮らし支援部会、相談支援部会、  
就労支援部会、権利擁護部会

■子ども支援部会

【第 1 回】平成 28 年 9 月 2 日（金）

◆メンバー 15 人

西濃圏域発達障がい支援センター、いかわクリニック、岐阜聖徳学園大学、大垣女子短期大学、県教育委員会西濃教育事務所教育支援課、ひまわり学園、市教育委員会学校教育課、市教育委員会教育総合研究所、市障がい福祉課事務局

◆テーマ

「スマイルブック活用のあり方 幼児期から就労段階への途切れることのない支援を目指して」

◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・大垣市スマイルブック（プロフィールブック）の活用について協議を行った。
- ・スマイルブックは就職するまで持ち続ける必要がある。入級や通級が終了しても必要な配慮が無くなるわけではない。保護者、支援者（教員等）への啓発が重要である。
- ・支援に関する情報を引き継いでいくことは重要だが、全ての情報を引き継ぐのではなく、必要なものを分かりやすい形で繋げるよう、記載内容を見直し、ステージに応じた引き継ぎ用シートを作成する。
- ・義務教育終了後、高校、大学、就労への支援（情報）の引き継ぎに問題がある。
- ・教員にスマイルブックを読み取る力量と時間が必要。
- ・個別の支援に関する情報を、どこかの機関で一元管理できるとよい。
- ・意見を踏まえてスマイルブックの内容を見直していく。

【第 2 回】平成 28 年 10 月 19 日（水）

◆メンバー 14 人

西濃圏域発達障がい支援センター、いかわクリニック、大垣女子短期大学、県教育委員会西濃教育事務所教育支援課、ひまわり学園、市子育て支援課、市教育委員会学校教育課、市障がい福祉課事務局

◆テーマ

「スマイルブック活用のあり方 幼児期から就労段階への途切れることのない支援を目指して」

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・大垣市スマイルブックの内容の変更及び活用について協議を行った。
- ・スマイルブックは保護者が管理し、保護者と支援者が協力して活用していくものであること、保護者と支援者との合意形成が重要であることを保護者に意識してもらえるように説明文書を見直す。
- ・移行支援のためのシートを作成する。本人の様子と今の対応などを記入できるようにする。本人が好きなことや安心できるもの、苦手なことなどのリストもあるとよい。
- ・幼児期、学齢期、義務教育終了後などステージごとにシートを作成する。シートの様式やその活用方法などはホームページに掲載してダウンロード可能にする。
- ・意見を参考にスマイルブックの説明文書やシートを見直し、来年度から配布する。

### ■暮らし支援部会

#### 【第1回】平成28年9月13日（火）

#### ◆メンバー 31人

相談支援事業所（大垣市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所、大垣市柿の木荘、ゆう、せせらぎ、グリーンヒル、相談支援事業所かがやき、のとファイブ、緑の丘相談支援センター、けあ・わーくす大垣、みるきいうえい、ひまわり学園）  
在宅介護支援センター静風、大垣市障害者生活支援センター、大垣市障がい者就労支援センター、大垣市地域包括支援センター、地域包括支援センター大垣市社会福祉協議会、大垣市地域包括支援センターお勝山、市高齢介護課、市障がい福祉課事務局

#### ◆テーマ

「介護保険サービスと障害福祉サービスの併給・移行について」

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・障害福祉サービス利用者が65歳に達した際の介護保険サービスへの移行基準がなく、障害福祉サービスの上乗せの基準も国からは示されていない。今後、利用者の高齢化に伴い、移行を検討するケースが増加すると考えられるため、両サービスの適用関係について検討した。
- ・大垣市介護サービス事業者連絡会会長の伊藤浩明様を講師に招き、介護保険制度についての理解を深めた。
- ・県内他市町への事前アンケート（介護保険サービスと障害福祉サービスの併給・移行について）の結果を報告し、他市町の運用について情報共有した。
- ・併給者（28%）、併給者のうち上乗せ支給者（40%）、65歳到達時に必ず介護認定をする（5/27市町）、上乗せの支給決定基準を設けている（4/27市町）、上乗せ支給を市町設置の審査会で判断している（7/27市町）
- ・意見交換では、「長年利用しているサービスや施設を切り替えることは難しい課題であるが、高齢者福祉、障がい者福祉がしっかりと連携して判断することが必要」「本人・

家族・支援者を交えてケース会議を重ねて開いていくことが重要」などの意見があり、平成 30 年度の障害者総合支援法の改正に向けて、介護保険サービスとの併給や上乗せ支給について検討を重ねていくことを共通認識とした。

## **【第 2 回】平成 29 年 1 月 13 日（金）**

### **◆メンバー 30 人**

相談支援事業所（大垣市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所、大垣市柿の木荘、グリーンヒル、ジーバケアサービス、みるきいうえい、ネクステージ、心牧園マーセリン、緑の丘相談支援センター、ワークステーション大垣、相談支援事業所かがやき、大垣市立ひまわり学園）

医療機関（大垣病院、西濃病院、養南病院、不破ノ関病院）

愛知県立大学、西濃保健所、大垣警察署、民生委員、大垣市障がい者就労支援センター、市障がい福祉課事務局

### **◆テーマ**

「長期入院をしていた精神障がい者の地域移行に向けた支援体制について」

### **◆部会の内容（主な意見や課題等）**

- ・西濃病院様から提供された「長期入院患者の退院支援・地域移行を進めたが、退院後 1 か月経過しないうちに再入院したケース」について、事例検討を行った。
- ・アドバイザーとして招いた愛知県立大学の宇都宮みのり教授よりケースワークの進め方について、①「本人が具体的・建設的で実現可能なニーズをイメージできるようにするためにはどうしたらよいか」②「今後連携しつつ支援していくために、どの機関が中心になったらよいか」について検討することを提案された。
- ・①については、「ひとり暮らしのイメージができていないため、生活の場としてアパートだけでなく、グループホームも選択肢に入れてはどうか」「生活と就労を同時に進めたことが負担だったのかもしれないので、段階と順番が大切」「事業所選びにあたっては、できるだけ多くの事業所を回って自分に合ったところを探した方がよい」「目標を細分化して、出来そうなことから試して成功体験を積み重ねていくことが重要」などの意見があった。
- ・②については、「本人は自分に都合のよい機関にしか連絡しないので、その内容を取りまとめる機関が必要」「入院中に相談支援事業所と連携を取り、早期に相談支援専門員が介入する」などの意見があり、本事例を含めた今後の退院支援や地域移行を進めていくうえでの参考にしていただいた。また、支援を申し出る就労支援事業所もあり、今後の関係機関による連携を確認した。

## ■相談支援部会

### 【第1回】平成28年7月19日（火）

#### ◆メンバー 45人

相談支援事業所（ゆう、大垣市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所、ひまわり学園、大垣市柿の木荘、けあ・わーくす大垣、障害者生活支援センタープラス、グリーン相談支援事業所、みるきいうえい、のとファイブ、はびりす、相談支援事業所かがやき）

放課後等デイサービス事業所（きょうあい、ラディアントステップ、すてっぷ、のとよーび、みるきいうえい、ラディアントスマイル、ラディアントスキップ、チャイルズスプリング、らしかラボ、Oasis、COLORS大垣、スマイル、みるきいふれんど）

大垣特別支援学校、西濃圏域発達障がい支援センター、市障がい福祉課事務局

#### ◆テーマ

「計画相談スキルアップ研修会（子ども支援についての講義）」

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・平成27年度より増加した放課後等デイサービス事業所の質の向上を図るため、「子ども支援を考える～子どもの見方、とらえ方～」をテーマに、相談支援事業所「大垣市柿の木荘」管理者の山田毅彦氏による講義を行った。
- ・出来ないことを出来るようにすることは長期目標として、子どもをその気にさせるために、出来ること（強み）に着目した達成できそうな目標設定をする。そして支援をしながら成功体験を積み上げていくことで、自己肯定感を育むことが重要。
- ・自己判断だけではなく、発達診断や発達チェック表を利用して、子どもの姿を客観的に捉えてから目標設定をする。
- ・相談支援や療育支援において、支援者の要求に従属させない、子どもや保護者の要求に従属しないことに気をつける。
- ・講義後、放課後等デイサービス事業所に対して、厚生労働省が作成したガイドラインを活用し、支援の質の向上と支援内容の適正化に努めることを確認した。

### 【第2回】平成28年11月29日（火）

#### ◆メンバー 31人

ゆう、大垣市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所、ひまわり学園、大垣市柿の木荘、けあ・わーくす大垣、障害者生活支援センタープラス、みるきいうえい、はびりす、のとファイブ、相談支援事業所かがやき、せせらぎ、グリーンヒル、ほっぷ、緑の丘相談支援センター、心牧園マーセリン、市障がい福祉課事務局

#### ◆テーマ

「相談支援業務における課題の解決（グループワーク）」

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・事前アンケートの結果として、計画相談支援において苦勞することや困難に感じていること（利用者や家族、関係機関との日程調整に時間がかかる、どこまでの支援を行えばよいか悩む、精神障がい者への支援方法）、相談支援の課題（本人と家族や支援者の思いが相違する場合の対応、実施した支援の評価が困難）等を報告した。
- ・相談支援について日々の支援で困っていることとその対応方法について、グループワークを実施した。
- ・グループワークでは、「精神障がい者への対応」「当事者の家族への対応」「相談支援として関わる部分の線引き」「相談業務に対する不安解消方法」等様々な課題があげられ、それぞれについての解決策について話し合った。
- ・相談支援の事例検討や障がい者が利用できる社会資源に関する情報共有等を希望する意見があるため、今後の部会で検討していきたい。

### 就労支援部会

#### 【第1回】平成28年8月1日（月）

#### ◆メンバー 事業所・事務局：33人 一般参加者：73人

事業所SORA、GCC大垣校、心牧園ココペリ、ワークステーション大垣、いぶき作業所、ウェルテクノスジョブトレーニングセンター、かわなみ作業所、株式会社クローバーネットワーク、かがやきネットワーク、ネクステージ、Notoカレッジ、工房さんぽみち、ハーモニー大垣、シュシュ、パン工房ドリーム、一般社団法人障害者福祉支援センター、新家サテライト、大垣市障がい者就労支援センター、市障がい福祉課事務局

#### ◆テーマ

「就労支援事業所紹介フェア」

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・障がいのある方や家族、特別支援学校の生徒や保護者、職員等を対象に、事業所ごとにブースを設けてポスターセッションによる市内就労支援事業所（就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型）17事業所の紹介を市役所大会議室にて行った。
- ・事業所の情報をまとめて聞ける機会が少ないので、今後も定期的に開催してほしいという意見が多くあり、事業所からも、他の事業所が行っている事業内容を知る機会になったという意見があった。
- ・当日の大垣市障がい者就労支援センターへの相談件数は3件と少なかったため、就労に関する相談の窓口として広く周知していく必要がある。

- ・運営上の課題を検討し、来年度以降も、情報共有の場となるよう定期的な開催を検討していく。

#### 〈開催の様子〉



### **【第2回】平成29年1月24日（火）**

#### ◆メンバー 28人

就労支援事業所（ウェルテクノスジョブトレーニングセンター、GCC大垣校、事業所SORA、マハナ大垣、クローバーネットワーク、Notoカレッジ、シュッシュ、一般社団法人障害者福祉支援センター、おひさま園、ハーモニー大垣、工房さんぽみち、カラーズ）

相談支援事業所（せせらぎ、けあ・わーくす大垣、みるきいうえい、のとファイブ、相談支援事業所かがやき、ひまわり学園）

NPO法人バーチャルメディア工房ぎふ、大垣市障がい者就労支援センター、市障がい福祉課事務局

#### ◆テーマ

「就労支援事業所同士や相談支援事業所等の他機関との連携について」

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・就労移行支援事業所で訓練を受けて一般企業に就職したが、作業がうまくできずに2か月で退職し、現在は就労継続支援A型事業所に通所しているケースを紹介し、再び一般就労するにはどのような支援が必要かについてグループワークを行った。
- ・グループワークでは、「過程を細分化して能力に合った作業を探す」「体験を通じて本人に出来ることと出来ないことを把握してもらう」「様々な職種を紹介し、就労に対する興味の幅を持たせる」「本人のニーズに沿うことも大事だが、本人に合う作業を見極めることが支援者には必要」などの意見があった。
- ・今後は、就労支援事業所と相談支援事業所の相互理解を深める場を設けることや、継続的に事例検討を行うことで連携性の向上を図りたい。



## ■権利擁護部会

### 【第1回】平成28年10月5日（水）

#### ◆メンバー 42人

障害福祉サービス事業所（いぶき作業所、工房さんぼみち、かわなみ作業所、ウェルテクノスジョブトレーニングセンター、ぐっどらんど、パン工房ドリーム、マハナ大垣、GCC大垣校、新家大垣、障害者福祉支援センター、Notoカレッジ、ライフサーブ、かがやきネットワーク、事業所SORA、シュシュ、おひさま園、クローバーネットワーク）

相談支援事業所（大垣市柿の木荘、緑の丘相談支援センター、けあ・わーくす大垣、障がい者相談支援事業所、ワークステーション大垣、みるきいうえい、ひまわり学園、心牧園マーセリン、相談支援事業所かがやき、グリーンヒル、ゆう）

社会福祉協議会、市高齢介護課、市障がい福祉課事務局

#### ◆テーマ

「成年後見制度について～障害福祉サービス事業所を対象とした研修会～」

#### ◆部会の内容（主な意見や課題等）

- ・昨年度のアンケートで、通所先の職員の方にも成年後見制度について理解してもらいたいという意見が多かったため、障害福祉サービス事業所や相談支援事業所の方を対象に、「成年後見制度利用の理解と周知」をテーマに、一般社団法人ぎふ権利擁護センター代表理事である岡川毅志様を講師に招き、制度の概要や後見人の役割、困ったときの対応などの講義を受けた。
- ・成年後見人の主な業務は財産管理（預金や株式、土地などを管理し、守っていく役割）と身上監護（介護保険や障害福祉サービスなどを利用しながら生活を守っていく役割）の2つであり、直接サービスを提供することはしない。
- ・成年後見人が来所したら、「登記事項証明書」や「審判書」を必ず確認すること。
- ・本人が契約に必要な判断能力を有しているうちに契約する「任意後見制度」や、「財産管理事務委任契約」の制度を紹介。
- ・制度がよく分からない、マイナスイメージがあるなどの意見が多い現状だが、判断能力が十分でない方が不利益を被らないための制度として理解し、利用してもらうために、成年後見制度を広く周知していく必要がある。

### 【第2回】平成29年2月23日（木）（予定）

#### ◆テーマ

「障がい者虐待防止ネットワーク構築について」